

一からわかる ドン・ボスコ講座 4

農家での奉公・
カロツソ神父

約3年間の農家での奉公

- ・勉強はほとんどできず
- ・家族と共に住むことができなかった

プリント④参照



研究者ステツラ師の言葉

「ともかく、ここでの三年間は無駄であったということはない。ここでジョヴァンニは神について深く観想する感覚を身につけた。牧草地での仕事を通して彼は神との対話に自分の身を置くことができた。

ここでの年月は神と人間から望まれ、備えられた時期であるといってもよいだろう」

1829年11月(14歳): カロツソ神父との出会い p39 [dvd3](#)



カロツソ神父とDBの会話に見る、 良い教育者の姿6つ。



1. 「(少年の姿を)カロツソ神父は目にとめ、こう話しかけてきました」

→自分から子供に話しかける。

2. 「じゃあ、今日の説教に出てきた言葉を四語言えたら四ソルドあげよう。どうだね？」

→ハードルの低い質問を投げかける。子供が喜ぶ報いを約束する。

3. 「同行者たちと歩きながら、カロツソ神父はわたしが半時間以上も話し続けるのをさえぎらずに聞いていました」

→子供の話をだまって聞いてあげる。

4. 名前、家庭環境、境遇を尋ねる。

→その子供に本当に興味を持っていることを示す。

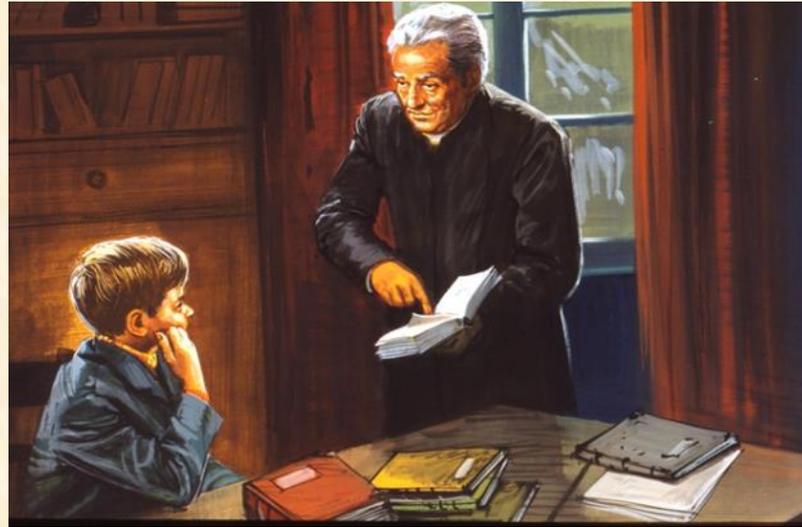
5. 「勉強がしたいかね？」

→相手の望みを察知して、引き出してあげる。

6. 「希望を捨ててはいけない。君のこと、君の勉強のことはわたしが面倒をみよう。今度の主日にお母さんといっしょに会いに来なさい。いろいろ相談したいから」

→子供の必要を理解し、できるだけ早くその必要を満たそうとする。

カロツソ神父との出会いの結果_{p43}



- ・DBは彼にすべてを打ち明ける。
- ・「魂の友」～一定の指導者を持つことに。
- ・DBの内面が開花し、勉強を再開できる。